

イメージキャラクター
「ベエズ」

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所

御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所

静岡市清水区日の出町7番2号

TEL. 054-352-4146(代表)

<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>



「みなとオアシス沼津」オープン！！

沼津港にこの度、水産複合施設「沼津魚市場INO（イーノ）」がオープンし、それにあわせて、沼津港は「みなとオアシス沼津」として認定されました。

「みなとオアシス」とは、港を核とした賑わい空間の創出を目的とし、各地方整備局が認定を行っているものです。中部地方では東海地震などの大規模災害の発生が危惧されていることから、中部地方整備局におけるみなとオアシスでは、賑わいの創出（にぎわいのオアシス）という従来からの観点に加え、災害時の生活支援（あんしんのオアシス）という機能を付加したものとなっています。

平成19年4月に「みなとオアシスがまごおり」がオープンして以来、当整備局管内では2件目、静岡県内では第1号のみなとオアシスとなります。

認定式が11月7日に中部地方整備局で行われ、佐原光一中部地方整備局副局長から斎藤衛沼津市長へ認定証が手渡されました。

また11月27日には、みなとオアシスの認定を記念したプレートの授与式が沼津魚類協同組合主催の「沼津魚市場INO」オープニングセレモニーと併せて開催されました。INOオープニングセレモニーでは、勝亦一強沼津魚類協同組合理事長、静岡県花森憲一副知事、倉田雅年衆議院議員、渡辺周衆議院議員らからの挨拶、祝辞があり、続けて「みなとオアシス沼津」プレート授与式が行われ、佐野透中部地方整備局地域港湾空港調整官の挨拶の後、藤井敦清水港湾事務所長より、斎藤衛市長へ記念のプレートが、後藤全弘沼津商工会議所会頭へはフラッグが手渡されました。

沼津港は、大型展望水門「びゅうお」や「沼津魚市場INO」等を活用し、水産祭・海人祭をはじめとした各種のイベントが開催されるなど、磯の香りや海の恵みを感じる事ができる賑わいの拠点として、また、いざという時の地域防災拠点として、地域から大きな期待が寄せられています。



佐原光一副局長から斎藤衛沼津市長へ認定証が手渡されました。(11/7 認定式)



記念プレートとフラッグが贈られました。(11/27プレート授与式にて)



沼津港のより一層の賑わいが期待されます。

ファインダーの向こう

沼津港の入口に立っている大型展望水門「びゅうお」の写真です。津波から地域を守るために、平成16年に建てられました。地上30mの高さにある展望回廊からは、日中は富士山や駿河湾の雄大な景色を見ることができ、夜にはこのようにライトアップされて、辺りは幻想的な雰囲気に包まれます。写真の左に見えるのは、今年11月にオープンした、観光機能を備えた魚市場「INO」です。

港の施設の中には、岸壁や防波堤など、そのほとんどが海の中にあってわかりにくいものもありますが、このように景観的に素晴らしい施設もあります。

沼津は鮭の干物などの海産物、千本松原、沼津御用邸記念公園など、魅力に満ちたところです。これらの観光資源を活用した地域振興のために、沼津港では先進的な取り組みが行われおり、中部地方整備局では、静岡県で初めての「みなとオアシス」として沼津港を認定しました。

港は夜と昼とで異なった顔を見せてくれます。皆さんも素晴らしい沼津港の昼と夜を楽しみに、是非お越し下さい。



Photo : A. Fujii



不審船役「まさき」

清水港テロ対策合同訓練が実施されました

11月22日(木)に、海保・警察・消防・入管などの11機関、人員約170名、車両16台、船艇6隻、ヘリコプター2機が参加して、清水岸壁を中心に清水港テロ対策合同訓練が実施されました。

訓練は、「銃器を所持した国際テロリスト4名が、清水港から不法に上陸する」との情報を受け、民間事業所や清水港危機管理メンバー及び清水港保安委員会が協力してテロリストを制圧検挙するという想定で情報伝達訓練及び実働訓練が行われました。

実働訓練では、当事務所の監督測量船「まさき」がテロリストの乗った不審船役を務め、船体にドクロマークを掲げて清水岸壁に向かって逃走してきました。

不審船は、岸壁接岸中の旅客船(タグボート)に着船し、テロリストらが爆発物の投てきや模擬拳銃を発砲するなどして抵抗し上陸を試みますが、海上を巡視艇や警備艇が包囲し、陸上では静岡県警機動隊が出動するなどしてテロリストを制圧検挙しました。

不審船内で不審物が発見され、清水税関支署のX線車を使った検査の結果、銃器と判明され押収しました。また、今回初めて「テロリストが有害ガスを岸壁に残した」と想定した訓練も実施され、静岡県警と静岡消防両機関のNBC(核・生物・化学)部隊が出動し、検知した結果、C兵器(有毒ガス)であることが判明、直ちに不審物の密閉回収が行われました。

訓練終了後、清水港危機管理担当官である宮本直昭清水海上本部長から「合同訓練は平成16年度からはじまり、今回で4回目となるが、テロリストの水際阻止を図るためには、今後とも各機関が連携した実践的な訓練を積み重ね、事案対応能力の向上を図っていく必要がある。」との講評がありました。



写真提供:清水海上保安部

巡視艇や警備艇に追尾・包囲されている不審船「まさき」



静岡県警機動隊がテロリストに向かっていきます。



X線車を使って、不審船内で発見された不審物を検査している。



NBC部隊による不審物の検知が行われている。

豊かなウォーターフロントフォトコンテスト授与式

国民の祝日「海の日」のイベントの一環として毎年行われている、社団法人日本港湾協会と港湾海岸防災協議会主催の「豊かなウォーターフロントフォトコンテスト」において、静岡市清水区在住の飯田忠雄氏の作品『夕暮れの帰港』が中部地方整備局長賞を受賞しました。

12月4日(火)に清水港湾事務所にて授与式が行われ、藤井敦清水港湾事務所長より賞状が授与されました。

飯田氏は、昔からみなとの写真を撮り続けているとのこと、現在のみなどについてのご意見をお伺いしたところ、「新しい岸壁ができるなどして、昔の面影がなくなっていくのは仕方がないと思うが、保安対策用のフェンスができて、憩いの場所が急に切り取られた気持ちになった。少しでもいいので一般に開放して欲しい。」とおっしゃっていました。

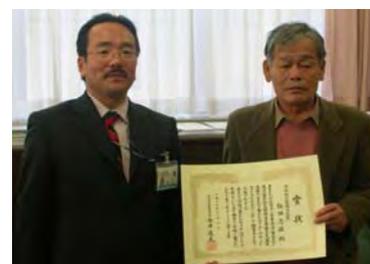
住民の皆様が、この景観をもっと楽しめるような港にしていきたいと思えます。



2007 中部地方整備局長賞

「夕暮れの帰港」(清水港) 飯田忠雄

写真提供:(社)日本港湾協会



12/4に清水港湾事務所で行われた賞状授与式にて



田子の浦港の東側の鈴川地区にある、富士山の形をした石の山『富士塚』についてご紹介します。

田子の浦港事務所発

～ふしぎな石の山【富士塚】～

富士塚は別名、“天の香久山”または“浅間山”とも呼ばれ、飛鳥時代からここにあったと伝えられています。

積み上げられた石は、昔、富士登山をする”行者”と呼ばれる人々が、登山の安全を祈って海水で水垢離(みずごり)をしたのち、海岸の石をひとつずつ置いていったと言われています。

戦国時代には、吉原湊(現在の田子の浦港)は舟の出入りが多く、大変栄えていたことから、戦国武将が競って吉原湊を支配しようとしました。そこで、相模国の北条氏がたびたび富士塚のあたりを本陣とし、駿河国の今川氏や甲斐国の武田氏と対峙したといわれ、「天の香久山砦」という名前を現在に残しています。

富士塚の参道を進むと、天気の良い日には写真のように富士塚と富士山の稜線が重なる面白い風景が見られますよ。



富士塚



富士塚と富士山の稜線がとてもきれいです



おまえざきオータムフェスタが開催されました

11月24日(土)・25日(日)の2日間、御前崎市主催による「おまえざきオータムフェスタ'07(第3回御前崎市大産業まつり)」が開催され、2日間で約7万人の来場者が詰め掛けました。

このお祭りは、『御前崎市の「匠と幸」の祭典』をテーマに、商工業・農業・水産業が一同に介し、産業と市民のふれあいや次世代の人材育成など、“エネルギーの街・御前崎市”の産業文化の促進を図ることを目的としています。

御前崎港事務所も御前崎港振興会と共同で出店し、パネル展示やDVDの放映、パンフレットを配布するなど、行政の立場から御前崎港を大いにPRしました。

御前崎港の整備をすすめていくうえでも、どうすれば「御前崎の匠と幸」を活かしていけるのか考えながら進めていく必要があります。



開会の挨拶をする石原茂雄御前崎市長



「冷凍みかん」でおなじみGTPのコンサートなどのイベント盛りだくさんでした。

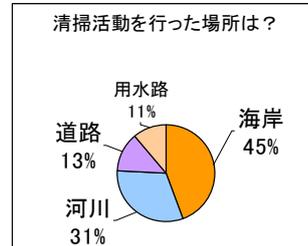
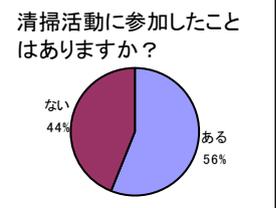
清掃活動に参加したことはありますか? ~アンケート結果発表~

10月28日に開催された清水港興津FAZフェアにおきまして、ご来場の方に「海岸などの清掃活動に参加したことがありますか?」というアンケートを行いました。

「参加したことがある」が56%と多く、清掃活動が盛んであることがわかります。また、場所別に見ると、1位が海岸、2位が河川という結果になりました。

このアンケート結果から、海や川というのは、人々が日頃から見ることが多く、きれいにしておきたいという気持ちの表れだと感じました。

また、アンケート中、「参加したくても、情報がないので参加できない。」というご意見もいただきました。当事務所におきましてもホームページなどで情報発信していきたいと思えます。



港うお(魚)ツチャー

ヒラメ編

(釣りバカカリチョー:監修)



いきなりでなんですが、臭い係長。何か踏んづけたでしょ？まさかあんだ！！

うわ、ウソっ、運が良かったっ！？・・・ああ、銀杏だなこりゃ。よかった～、びっくりさせるなよな。でもそんな季節になったんだね。富士の高嶺も薄化粧、海も冷たくなったのかなあ。

さすがに真夏の海とは様相をかえたね。

でもこの時期ならではのビッグターゲットが清水みなどに集結するよ。その名も☆ヒ☆ウ☆メ☆

:おおっと、それは魅力的な響きだ。

:厳しい冬に備えてか、はたまた来たるべき春の産卵を迎えるためか、彼らはキスや落ち鮎などを追って岸近くに現れる季節。チャンスだよ。

:焚きつけてくれるじゃな～い。どうやって釣るのよ？

:イワシなどの身エサをぶっ込むか、ルアーかな。いずれにしても厳しい結果を覚悟しなければならぬよ。なにしろ相手は大物だ。河口近く、三保海岸から久能海岸一帯で **Let's enjoy fishing !!**



下田港の防波堤製作現場をレポート～たくさんの人の手で作られる防波堤～

下田港事務所非常勤職員の吉田と塩澤です。当事務所発注の防波堤製作現場をレポートしてきました。案内されたのは、フローティングドック(ケーソン製作用の船)のトップデッキ。ここは水面からの高さが25mあり、ケーソン製作の様子を上から見るができます。

現場はコンクリート打設の最中で、コンクリートポンプ車から長いホースを使って送り込まれたコンクリートを、型枠に流し込み、空気を抜くなどしてならず作業が行われていました。

そこでは、多くの方が作業していて、圧送されたコンクリートを熊手やヘラを使って手作業でならずなど、ひとつひとつの細かい作業が人の手によって精密に行われていました。今の世の中、機械作業がメインだと思っていた私達にとってはとても驚きでした。

普段私達が目にする事のない所で、たくさんの人の手によって防波堤がつくられていることを知り、あらためて、「防波堤の巨大さ」に感動です。

海上からはほんの一部しか見えない防波堤ですが、製作にはたくさんの人が携わっていて、下田市民を高波から守るという大きな役割を担っています。

これからも現場見学会などを通して、防波堤の事をもっと多くの方に知っていただきたいと思います。



フローティングドックのトップデッキから

「ぱしふいっくびいなす」が入港しました



11/14に清水港に入港した「ぱしふいっくびいなす」の写真です。お昼に入港し、接岸中は岸壁が一部開放され、一般の方が訪れていました。見学に来ていたお子様連れのお母さんは、「日本平の公園でお弁当を食べていたら、入港してくるところが見えたので、港まで見に来ました。船が来ると必ず見に来ています。」と話してくれました。次に客船が入港するときは、日本平からも撮影したいと思います。



海とみなとの相談窓口

全国共通フリーダイヤル
おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間:9時～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く)

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本誌に関するお問い合わせ先■
清水港湾事務所 企画調整課
太田・屋敷

Tel 054-352-4148

e-mail shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp

